

## 土木学会専務理事 就任・退任のごあいさつ

### ●光栄ある歴史とともに———下村 肇

このたびはからずも、皆様方のご推挽により、前専務理事羽田巖氏の後任として、土木学会に勤務することとなりました。

元来、私は土木学会に対しましては、きわめて不熱心な会員であり、今回ご推挙のお話がありましたときも、おはずかしいことながら「はて、会費を納めていたかしら」とまず思いめぐらす程度の無関心さで、果してお受けして責任を全うすることができるかどうか、ちゅうちょいたしました。一体何をやればよいのかわかりませんので、私に向いているかいないのかさえ判断できずに、数人の先輩にご意見を聞きましたが、核心の問題には触れずに、ただ激励されただけでした。

結局、自分で決心するほかはないわけでした。

土木学会が設立されて今年で 57 年になりますが、その間、先輩各位の精魂を傾けてのご尽力により土木界の指導的役割を演じ、当学会の目的である、土木工学の進歩と土木事業の発達を図り学術文化の進展に寄与してきましたことは、私ども会員のもっとも誇りとするところです。

この光栄ある歴史を持続し積み重ねてゆくため、いささかでも、縁の下の蔭のお手伝いできれば、喜びこれに過ぎるものはないと存じ受諾することにしました。生来非才ではありますが、お受けしました以上は少しでも皆様のお役に立ちたいと念じ、懸命の努力を払うつもりでおりますので、よろしくお引き回しのほどをお願いいたします。

- 下村 肇（しもむらはじめ）略歴  
大正 6 年 7 月 25 日生(54 才)
- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 昭和 17 年 9 月 | 北海道大学工学部<br>土木科 卒業 |
| 17 年 9 月    | 内務省国土局             |
| 17 年 10 月   | 大阪府                |
| 27 年 7 月    | 和歌山県 道路課           |
| 32 年 3 月    | 秋田県 土木部道路課長        |
| 34 年 8 月    | 千葉県 土木部道路課長        |
| 37 年 4 月    | 神奈川県 土木部道路建設課長     |
| 42 年 4 月    | 岩手県 土木部長           |
| 44 年 7 月    | 茨城県 土木部長           |

(土木学会中庭にて)

下村専務理事(右)と羽田前専務理事(左)

### ●短かかった 8 年———羽田 巖

昭和 38 年に専務理事という職についてから 2 期、8 年が夢のように過ぎましたが、かえりみるといろいろのことが浮んできますが、霞に包まれた墨絵の風景画でも見ているような気がしています。そして平凡な言葉かも知れませんが、大過なく過ぎ得たという言葉の持つ意味が実感として迫ってきます。“なぜやめるんだ”とって下さる方がある、そして“ご苦労さまでした”とって下さる、ありがたいことだと感謝しています。しかし、それにもまして私の喜びは後任として若いはつらつとした下村肇さんにバトンタッチができたことです。

私が仕えた会長は、最初が当時建設事務次官であった山本さん、次いで東大名誉教授の福田先生、東亜港湾社長の岡部さん、当時鉄道建設公団副総裁の篠原さん、当時道路公団総裁の富樫さん、京大教授の石原先生、三井コンサルタントの柳沢さん、鉄建建設社長の大石さんの 8 人ですが、土木界の代表的な方々であり、こういう方とじかに接することができ、またご薫陶をいただいたことは土木学会にいたお蔭と感謝しています。

また、土木学会創立 50 周年記念事業や、国際会議の経費の寄付金をお願いなどで、頭を下げてまわりましたが、普通なら受付で門前払いを食うところを、あまり粗末にもされずに要人の方に来ていただいたことなどは、土木学会が、よく認識されておったためと思います。それは諸先輩や会員の方々の積善の余徳による歴史の重みといったもののたまものかと思いました。

終りに土木学会の一層の発展を願ってやみません。

